

県下の交通事故(8月末現在)

区分	事故件数	死者	傷者
44年	3,639件	137人	4,966人
45年	4,110	130	5,821
比較	増471件(+12.9%)	減7人(-5.1%)	増855(+17.2%)



第16号

発行所  
甲府市丸の内一丁目6-1  
財団法人山梨県交通安全協会  
TEL 甲府(0552)(35)2121 内線328



ママさんに守られて (第1部最優秀賞) 窪田一雄氏撮影

秋の交通安全運動

10月6日～10月15日

重点！歩行者の安全確保に

飲酒運転許さず

県民総ぐるみで運動

十月六日から十五日まで十日間、秋の全国交通安全運動が行なわれることになりました。今回の運動は、飲酒運転の追放、歩行者の事故防止などを重点とし、県民総ぐるみの運動として展開することになっていますが、その実施事項などは次のとおりです。

目的

この運動は、歩行者、運転者、運転者の屋主、その他道路交通に関係のあるすべての人びとに、交通安全思想の周知徹底と高揚をはかり、正しい交通ルールの実践を習慣づけることによつて、交通事故を防止しようとするものである。

準備期間自九月二十六日 至十月五日

実施期間自十月六日 至十月十五日

主唱

- 山梨県
- 山梨県警察本部
- 山梨県教育委員会
- 山梨県交通安全対策本部
- 山梨県交通対策推進協議会
- 財団法人山梨県交通安全協会

スローガン

- 乗るなら飲むな 飲むなら乗るな 酒は大きな事故のもと
- 運転者も歩行者も 交通ルール正しく守って 事故防止
- とび出すな 車は急には止まらない

重点目標  
○歩行者とくにこどもと老人の事故防止  
○飲酒運転の追放



ポントの死をむだにしないで (第一部佳作) 磯部 寛氏撮影

- 無謀運転による事故防止
- 県外車両に対する事故防止
- 交通安全指定道路の事故防止
- 推進事項  
この目標を推進するため、次の事項を強力に実施する。  
歩行者とくにこどもと老人の事故防止  
(1)交通安全説本の活用の徹底  
(2)幼児および児童の、とび出し事故防止のための、家庭における交通安全教育の徹底  
(3)自販車教室の開催  
(4)小学生、中学生に対する、乗り方の指導、整備点検の徹底  
(5)各種団体等による通学、通園路の整備点検の実施、こどもの遊び場の確保と、安全施設の再点検の実施  
(6)交通安全映画の活用  
(7)老人および婦人に対する交通安全思想の普及徹底、とくに交通安全映画による視聴覚教育の徹底  
(8)街頭指導の実施  
(9)通学、通園における正しい横断、正しい歩行の実践と、組織的計画による街頭指導の実施  
(10)交通規制による遊戯道路、買物道路、生活道路、通学道路等の確保  
(11)運転者に対する歩行者保護の徹底  
(12)飲酒運転事故の防止  
(13)飲酒運転の絶滅  
(14)地域における酒類提供業者と家庭に対する指導、並びに職場における運転免許所有者に対する指導および管理の徹底  
(15)新生活運動の推進  
(16)飲酒運転の誘因となる地域、職域の慣行を排除するため、新生活運動の実施  
(17)酒の配付  
(18)飲酒運転による事故防止の徹底をはかるための、ステッカーその他の資料の配付  
(19)無謀運転による事故防止  
(20)交通指導取締りの実施  
(21)信号無視、速度違反、追越違反、過積載等無謀運転に対する指導取締りの徹底  
(22)職場内における適正な運行管理の確保  
(23)車両の点検整備の徹底  
(24)中央道、主要国道、県道における運転マナーの指導の徹底  
(25)自動車整備士による交通安全一日奉仕(無料診断)の実施  
(26)県外車両に対する事故防止対策  
(27)県外車両に対し、交通安全の印刷物の配付と、事故防止の指導  
(28)中央道、国道、県道における交通指導、取締りの実施  
(29)道路の点検整備の実施

アイデアを募集

事故防止をより強力に

県民の衆知を集めて、より効果的な交通安全対策をたて、これを強力に推進したいと考え、山梨県警察本部と、山梨県交通安全協会が、次の要綱によつてアイデア募集を行なうことになりました。

○趣旨  
交通事故防止の具体的な方策について、広く県民から提案を求め、施策

○期間  
昭和四十六年九月末まで随時  
○送り先  
甲府市丸の内一丁目六一  
山梨県警察本部交通課  
選考および発表



本県は20人

「緑十字銅章」の受賞者きまる

- 本年度、全日本交通安全協会から贈られる交通安全賞のうち「緑十字銅章」の受賞者が決定しました。本県関係はつぎの二十名の方がたで、十一月五日午前十時から県民会館小ホールで行なわれる交通安全表彰式に優良運転者等の表彰されることになりました。
- 一、交通功労者
- 甲府 磯部 正男
  - 南甲府 渡辺 恵蔵
  - 南甲府 清水 文雄
  - 小笠原 望月 謙一
  - 清水 嘉幸
- 二、優良運転者
- 甲府 小林 末雄
  - 市川 高橋 英雄
  - 南川 深沢 七郎
  - 市川 望月 好弘
  - 富士吉田 古藤 良富
  - 富士吉田 山口 太郎
  - 大月 佐々木 國男
  - 上野原 富田 衛

○主催  
山梨県警察本部  
財団法人山梨県交通安全協会

○その他  
(一)アイデア原稿の末尾に住所、氏名、年令、職業(在学中の者は学校名、学年)を明記すること。  
(二)応募原稿は返却しない。

○推進要領  
(一)各種機関団体は、相互に緊密な連絡を保ち、責任分野と活動範囲を明確にした実施計画を作成し、積極的な運動を展開する。  
(二)この運動の実施については、準備期間中に準備を完了し、本期間中に開始と同時に運動が実施できるよう配慮すること。  
(三)運動の趣旨を全県民に徹底するため、あらゆる広報の媒体を利用して、全県民に周知する方途を講ずる。

○無謀運転による事故防止  
(1)交通安全指定道路の事故防止  
(2)交通安全旗の掲揚期間中、交通安全旗全戸掲揚運動の推進  
(3)総理府、警察庁発行の安全運転のしおりを、指定道路区間内の自動車所有者全員に配付  
(4)交通安全指定道路の事故防止  
(5)交通安全旗の掲揚期間中、交通安全旗全戸掲揚運動の推進  
(6)総理府、警察庁発行の安全運転のしおりを、指定道路区間内の自動車所有者全員に配付  
(7)指定道路の点検、道路環境の整備と交通障害物の撤去  
(8)町内会、部落会等の組織を通じ、交通安全行事を実施



飲酒運転は絶対しない

自転車の安全な乗り方

伊勢小チームが優勝

第1回山梨県大会開く

山梨県警察本部と、山梨県交通安全協会の共催による、第一回自転車大会の安全な乗り方コンテスト山梨県大会は、七月十九日、甲府市新紺屋小学校において行なわれました。



この大会は、県下各小学校で行なわれている、自転車の安全な乗り方教室の成果をみることに、こども

伊勢小と楠形北小出場

自転車の安全な乗り方関東大会

県予選のコンテスト大会に、一位になった伊勢小と二位になった楠形北小の両チームが、山梨県代表として、八月五日、駒沢体育館で行なわれた、第五回自転車大会の安全な乗り方コンテスト

ト関東ブロック大会に出場し、関東ブロック十県から選ばれた二十チームと競技を行いました。

全国大会は、八月二十五日に東京体育館で行なわれ、この中から選ばれた五人の選手が、来年五月、スペインのリスボンで行なわれる国際大会に出場することになります。



広報塔はなげく (第2部銀賞) 高坂幸太郎氏撮影

- 南甲府 伊勢小学校
小笠原 大里
長坂 若神子
長坂 高根東
南 西島
齋藤 睦合
市川 久那土小学校
石和 一宮北
日下部 塩山南
塩山 塩山第一
都留 禾生第一
大月 猿橋
上野原 四方津

交通指導協力者に

△死亡者は五十万円▽

山梨県では、七月二十一日から、交通安全協会、PTAなどが、一定の計画によって出動し、交通指導などに従事し、死亡又は負傷した場合に、本人又は遺族に対し、見舞金又は葬祭料を贈ることになりましたが、このほかに無条件に一名の選手を出すことができます。

第12回交通安全弁論大会

10月26日 甲府西中講堂で

山梨県交通安全協会、NHK甲府放送局、交通山梨新聞社の三者共催による、第十二回県下中学生交通安全弁論大会は、十月二十六日(月)午後零時三十分から、甲府市西中学校講堂

交通事故防衛に思う

清水 武士

交通事故防衛とは、家庭生活、社会生活の中で、その生活態度を正常にするに例えば、夜ふかしをする、飲みすぎをするなど、それが直ちに明日の交通安全の問題につながる。職場においても、上司がきつすぎる小言を言った

交通事故防止と言うが、それは単に交通の場だけのことではない。上棟式に酒は出さないで、持たせて帰すとか...その根は家庭生活、社会生活のすべての中にある。それが、交通のルールを徹底して教え込むことだ。これが交通事故防衛だと思ふのだが...

交通事故とルール 相原恵子 自転車のおじさんが、合図も何もないで急に右折しました。後から行った小型トラックの、耳をつんざくような急停車の音...間一髪でした。ルールを知らないのか、知っていても守らないのか。思わず身ぶるいしました。(県安協事務局員)

新規購入 映画の紹介

このたび、次の映画を購入しました。ご利用ください。一、「次は貴方も知れない」十六ミリ、カラー、二十八分。この映画は、ある有名な商社の係長が、一寸の心のゆるみから酒酔い運転で死亡事故を起こし、賠償金一千万円の支払義務を負った。妻は発狂して、家庭は悲劇のどん底に落ちてしまふという、飲酒運転事故の悲劇をドキュメンタリーなタッチで描き、ドラマとかみ合わせ全国のドライバーはもろろん、一般の人びとに訴えたもの。

四、「怒りと運転」十六ミリ、カラー、二十七分。「怒り」の感情を克明に追ったこの映画は、あなたが何度か経験されたかも知れない無謀な過失など素材に、科学的、心理学的に映し出されています。いらだたしげに鳴らす警笛、バカヤロウと身をのり出してどなる運転者...とかく見かけがちなこれらの行為...これは交通事故に導く魔の感情といえましょう。そして、さらに恐ろしいことは、安全運転になによりも必要な沈着な理性を、怒りは根こそぎ奪い去って、悲惨な事故という代価を置いていくのです。運転者向。



三、「おとうさんをかえして」十六ミリ、カラー、二十三分。この映画は、交通違反を主人公に、その作文、詩などを綴りませながら、貧しくとも、苦しくとも、力強く生きぬいていく生活記録を描いたものです。「おとうさんをかえして」と叫ぶこの子どもたちの悲痛な声は、必ずや人びとに交通安全の重大性を知らしめ、この悲劇を二度と繰り返してはならぬというところを、より深く、より深く万人の胸に訴えることができるものと思ふます。運転者、学童、婦人、そ

このほかに無条件に一名の選手を出すことができます。毎回、内容の充実した、力のこもったすばらしい弁論が行なわれるので、ことしはとくにNHKで、テレビ、ラジオによって広く県民にお知らせすることに努めていきます。多くの方がたのご出帯を希望しております。



交通安全のルールを守ろう

原動機付自転車も必ず損害賠償責任保険に加入してください。加入しないで運転すると処罰されます。

山梨県交通安全協会の主催で、ことし四月から八月までの期間に実施した「第四回交通安全写真コンテスト」による交通安全写真の募集は、第一部

### 第4回 交通安全写真コンテスト

最優秀賞に 窪田一雄氏(第1部)  
高坂幸太郎氏(第2部)

(交通一般についての写真)三十九点、第二部(交通事故写真)三十五点、計七十四点が寄せられたので、九月八日審査会を開き、次のとおり決定、九月十四日に

表彰式を行ないました。この写真は多数複製のうえ、秋の全国交通安全運動に、県下各地で写真展を開きます。

なお、昭和四十六年度にも第五回のコンテストを行なう予定であります。

- 銅賞 森沢 保三  
(甲府市東光寺町)
- 銅賞 藤岡 友一  
(甲府市中小河原町)
- 佳作 十八点
- 第二部
- 最優秀賞 高坂幸太郎  
(桐形町山寺)
- 金賞 横森 保貴  
(県警本部交通課大月分駐所)
- 銀賞 高坂幸太郎  
(県警本部交通課大月分駐所)
- 銅賞 藤岡 友一  
(県警本部交通課大月分駐所)
- 銅賞 藤岡 友一  
(県警本部交通課大月分駐所)
- 佳作 十八点



また、交通事故の現状は、現在四十七団体、構成員は三万余人であり、秋の全国交通安全運動の期間中に結成を見込まれている南甲府警察管内、大月警察管内その他を加え、約七十団体、構成員は四万人に達するものと認められます。

## 家庭婦人の役割り認識

10月14日 県下交通安全母の会代表者会議

また、交通事故の現状は、現在四十七団体、構成員は三万余人であり、秋の全国交通安全運動の期間中に結成を見込まれている南甲府警察管内、大月警察管内その他を加え、約七十団体、構成員は四万人に達するものと認められます。



一、日時  
十月十四日(水)午前十時から午後二時まで  
二、場所  
甲府市丸の内二丁目三〇  
三、議題  
(一)交通安全母の会の活動状況について  
(二)交通安全母の会の在り方について  
(三)県連合会の結成について  
(四)映画観賞  
交通安全映画の観賞を行なう。



命がけでわたる思い (第2部金賞) 松田由紀夫氏撮影



アツ危い  
そのスピードが 死を招く  
時速百キロノ、トラックに激突一炎上  
一死亡一すさまじさを語る事故のあと

(第二部最優秀賞) 高坂幸太郎氏撮影

地区別	交通安全母の会の名称	会長氏名	結成年月日	会員数
南甲府	伊勢地区交通安全母の会	清水 水丸	昭45. 8. 27	4,200人
	八田村交通安全母の会	清石 井上	昭45. 8. 28	750
重 崎	双葉町交通安全母の会	井上 美奈	昭43. 10. 16	724
	長坂管内交通安全母の会連合会	浅川 圭子	33. 9. 上	4,054
	長坂交通安全母の会	川内 島	同上	1,500
	高根交通安全母の会	藤原 千恵	同上	1,200
	大泉交通安全母の会	中進 宮	同上	340
	小淵交通安全母の会	宮本 子	同上	230
	白州交通安全母の会	野本 江	同上	350
長 坂	武川交通安全母の会	野本 江	同上	434
	万沢交通安全母の会	人月 子	41. 8. 29	291
	富河交通安全母の会	旗木 和	42. 9. 1	697
	内船地区交通安全母の会	中澤 義	37. 4. 1	200
	中野交通安全母の会	中澤 義	39. 9. 1	130
	豊岡地区交通安全母の会	中澤 義	42. 9. 1	345
	下山地区交通安全母の会	中澤 義	40. 5. 10	400
	上大島地区交通安全母の会	中澤 義	43. 4. 1	50
	丸瀬地区交通安全母の会	中澤 義	43. 10. 1	70
	塩沢地区交通安全母の会	中澤 義	44. 4. 1	40
南 部	角打地区交通安全母の会	中澤 義	42. 10. 1	200
	下大島地区交通安全母の会	中澤 義	44. 4. 1	45
	和田地区交通安全母の会	中澤 義	44. 10. 1	60
	上野地区交通安全母の会	中澤 義	43. 10. 1	162
	東八代郡交通安全母の会	中澤 義	40. 5. 1	4,650
	石和町交通安全母の会	中澤 義	同上	305
	御坂町交通安全母の会	中澤 義	同上	250
	一宮町交通安全母の会	中澤 義	同上	1,000
	八代町交通安全母の会	中澤 義	同上	160
	境川村交通安全母の会	中澤 義	同上	480
市 川	山梨市歌田住宅交通安全母の会	中澤 義	39. 4. 1	9
	山梨市立つじ幼稚園交通安全母の会	中澤 義	45. 4. 8	100
石 和	富士吉田交通安全母の会連合会	中澤 義	44. 6. 21	750
	河口湖町交通安全母の会連合会	中澤 義	同上	400
	忍野村交通安全母の会	中澤 義	同上	220
	勝山村交通安全母の会	中澤 義	同上	250
富 士 吉 田	富士豊交通安全母の会	中澤 義	同上	156
	七保交通安全母の会	中澤 義	43. 10. 12	67
大 月	上野原地区交通安全母の会連合会	中澤 義	45. 8. 10	2,442
	上野原小学校交通安全母の会	中澤 義	41. 5. 12	990
	島田交通安全母の会	中澤 義	42. 10. 15	218
	羽佐間幼稚園交通安全母の会	中澤 義	41. 5. 15	168
	上野原幼稚園交通安全母の会	中澤 義	41. 5. 16	116
	桐原交通安全母の会	中澤 義	45. 8. 1	311
	藤原交通安全母の会	中澤 義	36. 10. 1	190
	甲東交通安全母の会	中澤 義	45. 8. 1	224
	大目交通安全母の会	中澤 義	44. 10. 4	129
	西原交通安全母の会	中澤 義	45. 7. 10	96
計	47 団 体			

▼ 県下交通安全母の会一覧表 ▲

# 講習修了証が必要で

## ホークリフト 10月23日から講習

ホークリフトの運転免許証は、公定委員会、講習修了証は、労働基準局で、この二つが必要になりました。

昨年、労働安全衛生規則が改正されて、荷重三トン以上のホークリフトの運転業務については、労働基準局長の指定する講習を受け、その修了証を所持することが必要になりました。

つまり、ホークリフトを道路で運転するときは、公定委員会の大規模特殊免許が必要で、また、工場、事業場などでホークリフトを取



扱うときは、労働基準局長の講習修了証が必要になります。

そこで、このたび山梨労働基準局長の指定を受け、陸上貨物運送事業労働災害防止協会山梨県支部(山梨県トラック協会内)が、山梨自動車教習所(山梨県運動免許センター内)で、この講習を行なうことになりました。

この講習は、すでに三回行なわれ、今回は第四回目になります。

今回は十月二十三日(金)、十月二十四日(土)が学科で、十一月五日(木)から十一月十四日(土)までの間に一回実技の講習を受け、十一月十九日(木)に修了テストが行なわれます。

なお、この講習は、荷重三トン以上のホークリフトを取扱っている人はもちろんですが、三トン未満のものを取扱っている人も、将来を考慮されて、この機会に受講することが有利です。

また、この制度は全国共通のもので、山梨県以外に住所のある方も、希望者はこの講習を受けることができます。

詳しいことは、甲府市



# 安全運転教室 (その一)

## 安全運転の考え方と方法

丸の内二丁目五十五山梨県一せくだい。電話(〇五五)トラック協会へお問い合わせ (一〇) (二四局) 五三二一

一、交通の流れに応じた速度で走る。

交通量が非常に少ない場合を除いて、自分の運転する車が一台だけ単独で走る場合は、何台かの車

# 流れに応じた速度で

## バスの前後は要注意

が、前後左右に近づいて走ると、走らなくなるのが普通である。

ことに日本の市街地や主要国道、地方道では、車が連続して流れていくことがよくある。

二、狭い道路では、予測の困難な危険がひそんでいることが多いから、速度をひかえ目にする。

速度をひかえ目にするというときは、自分がこれより安心だと思える速度よりひかえ目にするということである。制限速度が四〇キロメートルだから、時速三十八キロメートル程度で走るといふことではない。

そして、交通量が少なく道幅の狭い道路では、交通の流れなどというものはなく、大体自分の車だけが単独に近い状態で走る場合も多く、このようなとき速度を上述のような意味で少しひかえ目にして、狭い路地や、植え込みのかけや、交差点などから不意に

現れる子供、自転車、車などのとび出しに対して、安全に対処し得る場合が多い。

自分がこれよりと思う速度より、ひかえ目にするということが重要で、これはおどろくほどの効果をもっている。

三、停車しようとする車や、徐行している車のわきを通過するときの注意。

自分の車の左前方を走っている車が、急に速度を落

ば、自分の車の速度もそれに合わせていかないと、その車の直前を左方から横切つて、自分の車の前にとび込まれる結果となる。

このようなときは、よくあることであるから、いかなる場合でも、自分の周囲の車が行動を変えたときは、その理由をよく把握することが必要である。

理由が不明のときは、自分の車も速度を落とすなり、その行動に一杯合わせることが、安全のために必要である。



すさまじい中央道の事故 (第2部金賞) 横森保貴氏撮影

く、路側に駐車中の車両、対向車線上に渋滞のために止まっている車についても同様である。

すなわち、床下の情報によって、車のかげから人がとび出すおそれがあるかどうかは、多くの場合予測することができない。

予測できない場合には、とび出しがあっても、じゅうぶん停止できるような速度で通過しなければ、いつかはとび出し事故を起こすことになる。

五、横断歩道の手前で止まっている車があるときの注意事項。

横断歩道の手前五メートル以内の部分は、駐車禁止の場所であるから、そこで止まっている車があったら、まず、そのかけに歩行者がいるものと考えなければならぬ。

市街地などで左右に並進する車のあるときは、特に横断歩道の手前で他の車が急に減速を始めたときは、まず、歩行者があるものと考えて、同じように速度を落とし、決して自分だけ先に通り抜けようと思えてはならない。

これが、横断歩道の手前三十メートルの間は追越し、追抜き禁止になつてい

として止まろうとしたり、徐行したりする場合、その原因をよく見分ける必要がある。

その車が左折しようとしていれば、自分の車はそのまま、その車の右側を通過すればよいわけであるが、左側から人や自転車または自動車などが出てきたら、それに進路を譲るために速度を落としたのであれ

四、バス停留所に停車中のバスの横をすり抜けるときは、バスの前後からとび出す人に注意する。

停留所で止まっているバスの直前、直後から人がとび出すことは、運転者としては予想しなければならぬことである。

バスの向こう側に人がいるかいないかは、五十〜三十メートル手前からバスの床下に注意して、はつきりと見分けることができる。

夜、暗くなってからでも市街地などでは思いのほかよくわかるものである。このことはバスのみでな



理由である。

また、対向車線が渋滞している、対向車が横断歩道上に一時停止しているような場合に、その間をぬって右方から歩行者がとび出し、とび出すこともめずらしくない。

いすれにしても、横断歩道付近に停車している車の

ある場合には、歩行者のとび出しを予想しなければならぬ。

無理な追越しをしない

六、速度に応じた車間距離を保つ。

車間距離をつめすぎると、とかく追突事故が起こることは周知のとおりであるが、それでは適正な車間距離はどれくらいかという点、乾燥した舗装道路で低速の場合は、少なくとも速度計の読みの上のメートルが必要とされているが、追突を防止するためには、以上のメートルをとるのが安全である。

すなわち、乾燥した舗装道路での安全な車間距離は、およそ次の表のようになる。

走行速度 (km/時)	車間距離 (m)
30	15以上
40	20
50	25
60	30

自動車の停止距離は、路面の条件によって大きく異なり、また、速度の二乗に比例して長くなるから、高速の場合は、より長めにとらなくてはならない。

右の表は、正常な舗装道路を多数の自動車、ほぼ同じ速度で走らなつて走っている、正常なブレーキによって前車が停止するような場合を想定した車間距離である。

しかし、前車の運転者が未熟であったり、または車の故障などで、停車中の車や、安全地帯に衝突したときや、スリップして路外に転落したときは、自分も前車と同じ事故を起こすことになる。

したがって、より安全に走るには、前車の運転技術、道路状況などを考慮して、車間距離を大きめにとる必要がある。